

# 岩国の過疎地 生活実態を調査

## 山大医学部のグループ 支援策に反映へ



住民から聞き取りを行う山口大医学部の長谷助教（右端）と学生（左端）

山口大医学部の長谷亮佑助教(37)らのグループが今月中旬、島根県境に近い岩国市錦町大原地区を中心に、住民の生活実態や健康に関するアンケート調査を

回る。特に、大原地区は錦町の中でも北部に位置し、中国山地の山あいに集落が点在する。民生委員の高齢化も進んでいるという。このため、中山間地域の課題を浮き彫りにし、医療や福祉施策に反映させてもらうと、アンケートを実施することにした。

アンケートは、11、16、18日の3日間、住民約60人を訪問し、53人から聞き取った。▽普段の生活で困っていることや健康面で不安に思うこと▽今の場所以でできるだけ住み続けたいかーなど計46項目を質問。夫婦二人暮らしや持病のある高齢者が多い反面、そのほとんどが、「この地域にできるだけ住み続けたい」との意向だという。

行った。同市錦町は高齢化率が50%を超え、県内でも人口減少や過疎化が著しい地域の一つ。11月中旬に調査結果をまとめ、地元の医療、福祉などの関係者と協力して、住民への支援策に反映させる方針だ。

錦町の高齢化率（1日現在）は52・7%で、岩国市全体の30・8%を大きく上

査結果を同チームに報告、活用法を検討してもらうという。